

資料「青森県における凶作地実況（1903年）」その1

矢上 克己

A bad crop place real condition of 1903 in document Aomori (I)

Katsumi YAGAMI

はじめに

本資料は、東奥日報特派員、藤澤生が1902（明治35）年の凶作の被害著しい青森県の南部地方（上北郡、三戸郡）を踏査巡視し、東奥日報に1903（明治36）年3月31日～同年5月3日まで26回にわたってレポートしたものの一部（1から12報まで）である。

東北地方は、農業を主要産業とする地方であるが、その農業は地理的に不利な立場にあり、気候の関係上一毛作を主とし、関東以西で見られるような裏作はほとんど期待できない。その上、東北地方には断続的に災害・凶作が来襲したのである。そのため、経済変動によって農業不況が惹起されたときには、他の地方より一層の、中下層農民を中心に窮乏状況が深刻化し、生活破壊、健康破壊を引き起こしたのである。1902年の凶作では青森県は平年の52.3%の減収で、とくに下北郡は皆無作、上北郡、三戸郡は皆無作に近い状態であった。

本資料は、南部地方即ち上北郡及び三戸郡下の凶作被害激甚地区の各村の惨状が詳しくレポートされており、凶作による窮乏状況とそれに対応する慈善事業や公的救済を学ぶ上で、基礎的な資料を提供するものである。

なお、この時期の青森県に展開する慈善事業の動向については、拙稿「青森県社会福祉成立史研究2—産業資本確立期の慈善事業の展開—」『地域社会福祉史研究』（第5号）地域社会福祉史研究会連絡協議会、2013pp. 57- 104、を参照されたい。

①雑報 凶作地実況（一） 特派員 藤澤生

派遣せられて南部の凶作地を踏査巡視すべく来る、今より後ち、凶作地の細民が昨年の不作によりて被りし惨害は甚魔の程度にあるが其の影響に依りて現はれし生活の情態が平作の都市と比較して幾何の差異を示したるか之が結果たる目下の惨状は又如何の程度に進みつゝあるかに就て其の実況を報し尚ほ能ふべくんは今後其の惨状は如何の度合ひにまで進むべきかを豫報し更に此の窮乏に苦しみつゝある同胞を何れの邊迄で救済せざるべからざるかを訴へんと欲す

想ふに曩きに、東郡の諸新聞社の視察員に依りて報せられたる状況は少しく膨大に過ぎたるの嫌ひなかるべきか現今の國状として地の何れを問はず少数の地主に幾倍せる多数の小作人が平年作に在りて尚ほ且つ満足なる生活を営み得ざるものあるに加ふるに畑作に於て三割弱（平年に比し）田作に於て一割五分弱の秋獲を辛くして収めたりと云ふ三戸郡猿邊、田子、上郷、五戸、市川、倉石、戸來、野澤諸村に在りては云ふ迄もなく其の惨状の黙過すべからざるものあるは事實なるべしと雖も然れども曩に傳

へられたる可如き餓口道の横はる底の甚たしきに至りては未た之あらさるべしと思ふなり之れ或は視る人の未だ地方の風俗習慣及平常に於ける細民生活の情態を詳かにせざる形跡ならんか兎角県民全体に係はる榮辱もあり且つは他に凶作地と同一管域にある新聞紙としては構へて膨大に流れず冷観に失せず努めて其の惨状の實境を傳ふべき責務ありと考ふれば豫しめ此の方針を以て視察を続けることとせん

先つ三戸郡下に於ける惨状の激甚地としては大凡戸來、倉石、猿邊地方を以て知られ居れと尚ほ其の他にも戸來、倉石地方と惨状を等しうせる数村落ある由なれば視察の必要ある村落の聞合はせ旁々三戸郡役所を訪ひたり其の際船越郡長及豊山庶務係長の両氏に依りて聞知したる所は郡下一般に共作の影響を被りしは云ふ迄もなきことなれど特に視察の必要ある村落としては上郷、田子、猿邊、野澤、戸來、倉石、五戸、市川之等八ヶ村にして右の村落に於ける昨年の田畑作物收穫の成績は米作に於て

表1 1902年の三戸郡下8カ村の收穫状況

	1902年作		平年作		平年に比し減 収高
	反別	收穫	反別	收穫	
猿邊	1371	6	1317	1457	996
田子	2592	100	2574	4058	975
上郷	2034	108	2237	3107	965
五戸	3143	326	3174	3529	908
市川	4713	214	4362	3819	943
倉石	3410	51	3411	4398	988
戸來	1670	皆無	1763	1516	1000
野澤	1454	80	1305	983	919

備考 昨年作高と平年作高との比較減収高に改算上の差あるは一方に陸作を参入せる為めなりと

又郡全体より見たる成績は平年作反別 59,061 反にして收穫は 68,233 石昨年作反別 9,530 反にして收穫は 3,247 石即 64,986 石の減収なりと云ふ之の調査にして若し誤りなしとすれば惨状の甚しきものある蓋し思ひ半に過ぐるものあらんか

次に畑作に於ても麦、大小豆、粟、稗、蕎麦、馬鈴薯、黍、大麻、菜種、苧ハテは蘿蔔、梅の細に至る迄詳細調査したるものあれど其の統計表のあまりに範圍広く到底一回に採録し難きものなれば爾後順を追ひて各村を踏査するに随ひ実況と相対照して順次報道することとせん

尚ほ船越、豊山の両氏より得たるものにして記報すべきもの多数あれと是れ等も各村の惨状に就き順次報する間に記載する方却つて都合よき様なれば之も今回の記報には見合はすることとしたり以上は先つ今よりち各惨害地に就き順を追ひて踏査し行くもの梗概ともなるべけんか希くは其の観て報する所多く誤りなからんを期し凶作地窮民の為めに世の慈善家の眞の同情慈恵を買ひ度きものなり明日は三戸を経て先つ上郷に赴く豫定なり（二十七日夜発）¹⁾

②雑報 凶作地実況（第2報の上） 特派員 藤 澤

田子村の窮民実況

本村は大宇田子及大宇相米の二大字より成り之に字部落数多を含めり總戸数 639 戸（寄留を含む）のうち昨年に於ける凶作の影響に依り衣食に窮するもの現在 113 個にして今後日を追ふて貯蔵する所の食物空乏するに従ひ窮民続出するの傾向ありと云ふ之れ田子村役場の調査する所にして大体の上に於て事實たるに相違なし然してかくのごとき此の如き情態に在る本村に就き与の視察調査したる處を報せんに先づ

◎被害の程度 としては前報に列記したるものうちにある如く田作に於て本村總反別二千五百九十二反歩に対する昨年の米收穫高は些かに百石（坪刈成績一坪平均收穫粳にて一合三勺玄米にして五勺余）之を平年作の收穫に比較するに約三千石の減収にして實に昨年位に於て三步作を収めしなり次に畑作中重なる作物の收穫を見るに精確なる調査に依れば

表2 田子村の畑作の收穫状況

	反 別	昨年收穫	平年比較減収高
麦	1,650 反	355 石	795
大豆	1,500	1,107	367
小豆	40	4	556
粟	3,200	480	786
稗	2,800	280	875
蕎麦	2,500	1,000	500
馬鈴薯	60	600	880

先づ斯の如き結果にして更らに之等の作物總体を統括りて算を当つる時は總反別一万一千六百九十反歩に対する三千〇百二十六石平年よりも四千七百五十九石（馬鈴薯の調査は貫目故除けり）の減収にして先半作柄と云ふを得べし要するに米作は殆んど收穫を以て僣すべからざるも畑作は県下を通して不作に苦しみつゝある場合本村の如き生活上に多少の如き生活上に多少の良策を施すに於ては以て堪ふべきの程度にありと云はざるべからざるが如し況んや此の地方の風俗として全然畑作の生産物を常食となしつゝあるに於てをや然るに事實は大ひに之れと相反する處あり日々衣食の急を告ぐるもの増加して目下已に五百の全戸数中百余戸の窮民を以つて僣し其の上今後益々其の数を増加するの傾向あるは何の為なるべきか畢竟するに此の地方の週刊として中流と僣せらるゝ農民以下は米及大豆は翌年の種料を除きたる外全然之を売却して一ケ年の諸入費及納税の費用に供し他の畑作物を以て常食となし居るより昨年の如き凶作に遇ひて今や日常諸入費の出所を失ひたると一には平年とも余す所なく生活し居りしものか本年に入りて急に諸費用に代ふべき米大豆を得ざりしのみならず一ケ年の食料に於て半減せられしに依らすんはあらざるなり

◎被害の影響 右の如き被害情況を示せる本村は如何なる影響を受けたるやと云ふに先づ村治の困難を来たせるは云ふ迄もなきことにして先々月以來は村吏員俸給〇小学校教員の俸給に於いて二三ケ月余其

の支払を停滞したるとあり為めに小学校の如き□□教育上諸種の点に影響を及ぼすに至りたるか過般一時借入金をなして漸く滞りたる分の支払を済ますを得たる状況にして今後とても斯あることあらんを慮り村当局者は目下充分劃策中なりと云ふ何せ納税力を減殺せられたるもの全村の三分一強に当ると云へば今後或は徴税上豫想外の困難を来すことあるべきか然し本村窮民は地租税の如き延税認可の場合あるに拘はらず其の願出ををなさぬ傾きありと云ふが其の所以を聞くに早き以前よりもヤハリ凶作の結果地租税三十五年賦延納と云ふことありたるか其の累はつひ先年頃にて至りて漸く終り人民は永く重税に苦しみたる経験あるか為めにして余程の細民にては地租税だけは瘦せ土を売りにて延納など願はぬ方がよかるべしとて地租特免に迄で至らざりしを遺憾とし居れりと云ふ次に凶作の影響は未だ小学校生徒を休業せしむる迄に至らざれど中には昼飯の携帯に困難を訴へ居るものもありとなり總体本村に於ける農家の副業としては別段云ふべき程もなく田子の製糸場の如き地方に於ては随分有名のものにして従来は一部の婦女子等は可なりの日傭料を得たるものなりしが先年以来利損思はしからざるに至れりとて目下中止の姿となり居れり

◎目下の惨況 斯くて目下窮民は如何の惨状を呈しつゝあるかと云ふに先づ目下百余戸の窮民中其の三分の二はドウなりコウなり粟、蕎麦、稗等に蕨のハナ又は今より後ち生殖する所の野菜等を補助して今秋迄で保つを得へく夫れとて生活法に就て村理事者の良案を授くるか或は多少救助を与へざれば保ち得ざるものあるに至るへし次に極貧者として数へらるる三十余戸は近く救助を要するの止むなきに至るへく現に救助法其の他に依りて救助を受け居れるもの十余戸至つては充分世の慈善家を煩はさざるべからざるものなるべし之等に就ては田子村役場員に案内せられて戸々実際に就て見たる惨況を記載することとせん²⁾

③雑報 凶作地實況（第3報） 特派員 藤 澤

田子村の窮民實況（下）

◎窮民の惨状 大字田子の窮民にして戸主は清水末太と云ふ白痴なる上当年十三才の小兒、之れに七十餘才の老祖母及十六才許の末太の姉と家内三人なり家屋を見狎れたる地方人の目にさい驚かるゝ許りの荒れ屋にして幾年來修繕を加へざるものも屋根剥けて所々より日影差し入り北側の囲ひ板は殆んど一枚隔てに剥け失せて宛然大格子戸の觀あり予等の訪ねたる時は末太は居らず姉は軒下にありて厚さ正味二分位襤褸を縫ひ居たり中には押入れのあるにあらねは荒れたる桶、盥、ボロ夜具など散乱し座敷には蓆一枚敷いてあらず老女は板間に綿入らすの襤褸布団を被りてて打ち臥し居たるき

森嘉助とて四十歳許の夫婦、二人のみなれば外にては持てる田畑よりも取れぬ作の況して嘉助は持たぬ地所より収穫あるべき筈もなければ平年ならば汗一つに糊口を凌ぐべけれと何せ嘉助は足腰立たぬ老父母に五人の小供さへ加へて一家九人の日暮らしなれば自ら惨憺たる生活に陥るも無理なからぬことと云ふべし斯くても今年より高等科に登るべき息子一人には土を噛んでなりと今少し學はしむる考なりと心掛けの程感すべし予等の尋ねたる折嘉助は古縄と新縄との組合せにて蓆を織り居たるか藁さい早や欠乏を告げ居れるなりと

元は盛岡藩士にして松尾秀方と云ふ六十才許の老夫婦幼兒一人をもてるに衣食さへ事欠くに秀方近頃持病の痛氣起りて打ち悩み居れりと悲惨の状云ふべからざるものありき予等のの訪ねたる時は小供等に

売らばやとてか小竹をそぎて日の丸旗を作り居たりき

右は其の一二を記したるなれど外にも田子村全体にて惨状を極め居るもの元村兼次、山影仁太郎、新田房吉、山本英造、中平由松等の数名あり之等は手足の達者なる壮丁なきもの又は若夫婦二人にて老親及大勢の小供あり為めに到底稼ぎ切れぬ者等に属して右から左に救助の必要あるものなり然して其の他の窮民百餘戸は即ち外国人の救與せし米穀物品を與へたる迄にて目下は草根木皮と迄には至らざるも食料の過半を蕨根（蕨根の澱粉）アモ（蕨根より澱粉を去りたる残物を更らに細末したる物）藤葛の根の澱粉（殆ど蕨根の澱粉と同じ）其の他笹竹の実、米糟、稗糟等に仰き稗、粟をもとしてドウなり、コウなり生活し居るものにて漸く暖気に進むに随ひ雪も消ゆることなるべければ（目下田子村地方の山に積雪あり）蕨根掘るも従つて容易になるべく補助食も多少得易くなることなるべし只憂ふべきは粗食の結果窮民の栄養不良を来して或は疾病を起すに至らざるべきかの一事なり已に恐慌に遭ひて食ふに食なきものは食味の善悪を選ぶべきに非らされは時としては無味恰かも木を嚙むが如きものも之を厭ふべからされと斯くて来る疾病を見るとせんか眞に杞憂を價すべきものとなるべし幸ひ田子村には未だ攝養の不良より来れる疾病者ないと雖も村理事者又は村内の重立ちとしては大ひに注意する處なかるべからず殊に蕨根、アモを長期間食用とする時は腫れ出すものなることは獨り天明年間に於けりし实例に就て之を見得べきのみならず地方に於ても前年一二の貧窮者に之を見たるものありと云ふに於てをや

要するに田子むらにおける窮民の多数派所謂普通の細農の凶作に遇ひて更らに窮乏の或る程度を増したるものにしてヨシ蕨根の澱粉、藤葛の根澱粉、又は稗粟糠を以て多量の補助食とするも食ふの困難よりは寧ろ納税又は必要止むべからざる生活上の諸費用を得るの困難は却つて甚だしき如く田子村に於ける所謂凶作の惨状なるものは之に依りて多く甚だしきを告げたるものゝ如し故に部内百十餘戸の窮民中其の多数は平年よりは稍々窮民を告げたる普通の窮民たるに反して一部十餘戸は窮民中の窮民として格段なる惨状を示せる也然して斯の如き本村に在て

◎今後の惨状 は何れの程度に迄進べきかは餘想するに難からざる所なり即ち百十餘戸中普通の窮民に在りては多少の賃金を得べき仕事を得るに至らば補助食の続く限りは今年の秋収期迄保ち得べく部内窮民中の窮民とも云ふべき十餘戸丈は賃金仕事を授くるも之に従事すべき壮丁なき者又は不釣合に家族多き者なればドノ道救助一方に依らしむるより致方なかるべし

右の如き情況なるに依り普通窮民と云はるゝものゝ救済法の如きは與ふるにさいにからは同しく之れ同胞相憐むの情よりして與ふるに如かざれど寧ろ此の場合彼等窮民の心膽を励まし依頼心を起こすの弊風を見ざる上に於て何かの仕事（敢て職業と云はず）を授くるに如かざるが如し然して此の村に於ける細民の多数が曩きに県当局者に依りて劃策せられし県債土木工事の実施を待ち続々其の人夫たらん事を志望し居る由なるが凶作地の窮民として斯くあるべきことなりとす尚ほ當地方よりは目下多少鐵道の枕木を産出し居るが此の場合私有山林に富む地方富豪は勉めて枕木の売出伐採等の事業を起して部内の窮民を便役し多少に不拘其の賃金を得せしむるとが如き義挙をなすあらば他府県に於ける慈善家に対しても地方の面目を保ち得る良手段なりと云ふべし³⁾

④雑報 凶作地実況（第4報） 特派員 藤 澤

上郷村の凶作実況

本村は七大字よりなり總戸数五百餘戸うち目下窮民と称せらるゝもの百五十一戸（人数百六十二人）にして此等は曩きに外国人の義捐になりし米穀其の他の物品を現に分與せられ居る者也

◎被害の程度 米作に於て村内總田反別二〇三四反歩に対する昨年の收穫高一〇八石、之を平年に比するに大略三千石の減収にして更に畑作重なるものに就て其の收穫成績を見るに可及的精確を期して調査したる所に依れば即ち左表の如し

	總反別	收穫高	平年に比し減収高
麦	756	1058	186
大豆	1678	633	609
小豆	40	7	78
粟	556	111	800
稗	1200	240	933
蕎麦	750	1200	500

然して之等の雑穀に就き更らに全体の平均を算すれば總畑反別四九八〇反に対する收穫高は二千三百四十九石之を平年に比するに三千七百三十六石の減収なりと云ふ右の調査に依れば本村は田子村に比し米作に於て多少收穫多く其の他の雑穀に於て少々不成蹟を見たり之に就ては昨年の不作は高山に接近しある村程田畑共被害の度を高めしは一般の状況なるに獨り上郷村は田子村に比し里程にしては三里余も山根近くに位置せる不拘田作に於て田子村よりも其好成績を示せる疑問なりし故就て調べたる處大字石亀の一支村なる原別（戸数三十戸位）と云ふ一部落は案外に米収の成績よかりし為め斯くは全村を通じたる平均に於て田子に勝りたる譯にして敢て之れか為め全村に於ける生活上の困難を減じたるに非らず寧ろ此の地方の主要食糧たる雑穀に於て不成蹟なりし故生活に及ぼしたる影響は田子村よりも更に甚しきものあるか如し

◎凶作の影響 に至りては敢て田子村と甲乙する所なく諸税の徴収にはもつとも困難を感じ居れるか如く村治の上には已に五六百圓の一時借金をなしたりと云ふ又部内四個の小学校中二校は通学区域廣ろき為め教師は生徒に對しては稗糠やトコロを刻み入れたる粥飯にせよ曲鉢に入れてなりと中飯に持ち来るべしと勧誘したりしが仲々実行六ヶ敷き為め止むを得ず午前授業に止めたる迄にして別段生徒の休校を見る迄に影響を及ぼさざりしが只新学期に際して窮民の子弟に教科書を買ひ與ふる力なきもの多き為め今後或は生徒の休校するものあるに至るやも知るべからざるが如し教師の警戒を要する處なるべし其他此の村に在りても一ヶ年に要する生活上の諸費の如きは雑穀を主要食糧とし米を売り以て之れに充つる習慣なれども米収なかりし為め之等の費用の支弁を欠き従つて衣服調度の如きは思ひも寄らざるに至れるは云ふ迄もなき事なりとす然し之れ等の窮民は平年に在りても別段之れぞと云ふ調度をなすに非らざれば一応の觀察位にてはかほりありとも見えざるなり斯くて前述の如き被害と其の影響とありし上郷むらにて

◎目下の惨状 は如何と云へばヤハリ田子村と同一程度に在りて之を普通の窮民と窮民中の窮民との二種に分つを得べく中に就き大字遠瀬の字新田は其の窮状尤も甚しくして窮民は十戸内外之に次は大字山

口の字山口なるが此の部落は先年火災に罹りて部民の全部は殆んど一物も残さず鳥有に帰し其の疲弊未だ癒えざる矢先に偶然昨年の恐慌に遭ひしものから殊に窮乏を極めたる次第なりと云ふ今全村に亘りて見たる所の実況に就き其の二三を挙げんに

△佐藤勘之助 と云ふ老人夫婦（七十餘才）最早起居も思ふに任せざる有様なるか元は相応に暮らせる者ありし由にて大きな家の一物もなき中に老夫婦二人が淋しく棲めり之れ等は蕨根やトコロ芋を掘るの手足も持たざれば目下救助一方に依りて糊口を凌ぎ居り救助を欠けば即ち生命を欠くの類なり

△榮田勘三 とて老親二人と小児三人を持てる若夫婦は如何に汗水を絞りて稼ぐも一家七人の口を追ひつかるべくもあらざるより目下老親二人と幼児二人には彼の外人の義捐分配を乞ひ夫れにトコロを刻みたるもの又は菜葉、稗等を混じて粥を造り些かに飢えを凌ぎ居れり

此の如きもの道地折右衛（老母小児等一家二人）同申松他八戸ありて所謂窮民中の窮民に属するものなり其の他普通の部類に属する三十餘戸もアモ、稗糠、トコロ、藤葛の根乃至は菜葉等を日常食料の大部分となし居るは云ふ迄もなきことなり然して茲に注意すべきは上郷村に於ける之等の窮民中には天理教を信じ居りて早くより家財を失ひ居りたるもの故昨年の凶作に依りて一層窮乏を感じ居れる者多数あれど之等は非常の困窮を極め居れるにも不拘尚ほ且つ迷信に浮かされて救助を要せずと我慢を張り見るに忍びざる粗食の結果目凹み肉疲せたるの状を示し居るも更らに恬然として天理の救ひを俟ち居るものある之れなり之れ等は救はんとす欲するも救はれざる者にして其和全村を通じて二十戸に近しと云ふ嘆すべき事なりとす

◎要するに 本村に在りても普通窮民と窮民中の窮民とは比較の取れざる程惨状の相違を示し居り後者に属する十餘戸はドノ道相応の救助を以てせざれば悲惨の末路に陥るべく前者の百六十餘戸は金品を以て救済するよりは何かの仕事を與へて之を救済するの優れるに如かざるものあり且つ之等は些かに収むる作物以外に何かの労働仕事より得るものを加へて些の餘裕なく生活し居るものなれば夫々繰り廻し上手の部類たるなり現に此の村に於ては小坂、古老倉両鉾山に接近し居るものから人夫として多少稼ぎ居り両鉾山の需用に當り居る荷馬車の如きも村全体にて四十四台を有して現に之等の荷馬車は日々賃金を収め居れる次第なり其他多少に不拘薪炭の売出しもあり旁々生活費を助くる仕事田子に比して却つて優れるものあり又凶作窮民救済の目的に依りて成りし県債土木工事へも其の実施の暁には使役せられたしとて現在二百二十三名の入夫志望者ありと云ふ之れに依つて之を見る時は一部の最も甚たしき窮民を除くの外は本村に於ける多数の窮民は目下の所謂窮民中の窮民か平年に於て感じ居る困窮万位ひのものならんか只凶作の結果として村内に於ける餘裕ある者が平年と反して全く穀物其他の物品貸與を肯んせなるに至りし為め意外の空境に陥りし形跡あり⁴⁾

⑤雑報 凶作地実況（第5報） 特派員 藤 澤

猿邊村の凶作実況（上）

本村は三戸郡に於ける僻村の一にして奥羽山脈の麓巒峯起伏の間にあり幅稍々廣き両岐の溪谷に沿ひ点々として小部落をなし具守、蛇沼、袴田の三大字より成れり全村の戸数は三百七十九戸にしてうち昨年の凶作に依り三十四戸八十五人の窮民を出せり之等は即ち曩きに外国人の義捐になりし米穀其の他の物品を給與せられ居るものなり

◎被害の程度 村理事者の調査に依れば米作に於て總田反別一三七一反歩に対する今年の収穫高は些かに六石之を平年作に比すれば実に 1000 石の減収なりと云ふ元来本村は平年とも水田の作柄は宜しくからずして之を田子、上郷邊に比較するに通常一反歩に就き二斗位の作不足を減じ居るは事実なるか如きも予の觀たる所に大なる誤りなき限りは百三十七町余の水田より今年の収穫高些かに六石なりしとは事実として之を報ずる得ざるが如し依って試みに或る若者に就き稲束一束より得たる収穫高を質したるに約四勺との答を得たり今仮に一反歩の稲は通常百束（一束は六把を束ねたるもの）なりとすれば一反歩の収穫は四升となる之を猿邊村の總反別百三十七町余反に積算すれば数字に於て五十三石余を示に至るなり依って思ふに猿邊村の米収六石は六十石の誤りなるものゝ如し想ふに猿邊村にて百三十七町余より些細かに六石を収穫せりとは予の誤聞に帰せんこと願ふものなり次に畑作に就て其の被害の状況を見るに左の如し

	畑反別	収穫高	減収高
麦	376	230 石	455 石
大豆	3750	1125	620
小豆	82	25	428
粟	384	1152	424
蕎麦	3530	1147	454

重なる雑穀の昨年度収穫は十に左のごとき成績にして大豆、粟、蕎麦に於て予想よりも好結果を示し全体に於ては半作強の作柄なりしなり雑穀にて前掲の如き結果を示し更らに米穀に於て幸ひに六石は六十石の誤りなりとせば猿邊村は人口の多寡より来る関係上田子、上郷二村に比して窮民の数を減じ且つ惨況協の程度に於ても自ら軽減せられざるべからざるりゆうを生ずるは当然の理致たるべきなり而も事實は之れに反して全戸数の尠なき割合に窮民多く而も其の惨状に於て遙かに田子、上郷二村の上にあるは那邊の原因に依ってなるべきか

◎凶作の影響 被害の結果の本村諸般の事に影響したるは之又云ふ迄もなき有様にして地の僻陋にある丈け夫れ丈け田子、上郷二村に比して甚だしき影響を蒙れるが如し平年に於ける本村は重に大豆を売り出して人民は一年の生活上に要する諸費又は納税費に充つる慣なるが幸ひ昨年は大豆作に於て六分強の収穫をなせる故稍其の苦痛を免かるべき理由なるに聞く處に依れば本村にては一般田畑の必要を認め先年来人民一般に貯ふる所の米其の他の雑穀を売って田畑を墾き又は他村より之か購入を行ひたる為め殆んど餘裕と云ふものを失ひ居れる矢先き今年の凶作を見るに至りしより案外の苦痛を感ずるに至れるものゝ如し従って戸数の尠なき結果受くる所の諸税の如き少々重きものあるより納税の渋滞は当然免かるべからざるものとなり村治の上にも尠なからざる困難を醸せるか如し然して戸数尠なき割合に部落は遠く擴かり居るものから小学校の如きも五箇を設けて児童を育英し居り従って教育費の如きもあまり輕からざるが如し教員俸給村吏員俸給の如きも一時支払を渋りたりしが幸ひ弁済の道を得今後多少の村債若しくは一時借入金をなすに至りては左迄の痛痒を感せざるべしと云ふ尚ほ小学校生徒の休校せるか如きは未だ之れあらずされど中飯を携提するの至難なるより窮民の子弟は今後或は出席を欠くものあるに至

るやも計られざれど斯の場合は段々日永にもなる事故断然半日授業を行ふ方針ありと云ふ窮民は其の子弟に教科書を買ひ與ふる力なきは上郷、田子に於ける現象と敢て変りなくこは凶作地村民子弟か一般に受くる處の不幸なるべし当局の人々も之に就ては十分の勘考ありたきものなり

◎目下の惨状 僻村丈けに人民の生活の程度も従つて低く衣食住の如きは同胞として殆んど見るに忍びざるものあり殊に凶作の為に窮民の意気は非常に沈淪し居住の周囲等にも手入れを加へざるより其の汚穢殊に甚だしく大字貝守の窮民十六戸同蛇沼十六戸の如き云ふに忍びざるものあり大字袴田は幸ひ三戸町に接近し居るより人民は何かの工夫仕事や薪炭其他のものを売り出して小使銭を得るの便宜あり旁々苦痛を減じ居りて窮民と称すべきもの大字中些かに四戸あるに過ぎず（此頃未完）⁵⁾

⑥雑報 凶作地実況（第6報） 特派員 藤 澤

猿邊村の凶作実況（下）

◎目下の惨状（続き） 曩きに報せし田子、上郷の二村にありては全村を通じて各々百数十戸の窮民を以て算し居るも日来觀たる所に依れば之等窮民の中には普通（多数）のものと窮困の者（少数）と二種の階段あり後者は以て初めて世の慈善家に訴へて救済を乞ふべき境遇にあり旁々単に窮民と云ふと雖も同一に觀るべからざるものありしが猿邊村に至りては大ひに之れと趣きを異にするものありすなわち上郷、田子の二村にありては手足の達者なるものは多少に不拘労金仕事其他の収入に依りて尠なからず家計を助け得るものあるより老親病者若しくは多くの小兒等を抱え居る者に限り初めて非常の困窮を極め居る現象なるも猿邊村は之に反して他の僻陋に部落せるより手足の不自由ならざる者と雖も仕事の頼るべきなく偶々炭を焚きて之を市に嚮かんとすれば目下は其價下落して一貫目二銭（五貫目入俵にて十銭内外即ち平年の半値）位より売れず之れとて町と遠隔し居るのみならず山又た山の険路を越えて運搬せんとするは容易の業にあらざるべく山桑を摘みて売らんとするも未だその時期に非らず殆んど一事のなすべきなき有様なれば村内三十六戸八十五人の窮民は殆んど甲乙する所なく同一程度の窮境にある次第なり之れ等の窮民は昨収穫の当時は非常の恐慌を來して早くも蕨根、クズの根（藤葛の根を云ふ）又はトコロ等を掘りて土穴に貯へ少しく収めたる雑穀に之を混じて昨冬期間を凌ぎ来りしが今の處にては少し許り収穫したる雑穀は殆んど食ひ盡したる上蕨根トコロ芋等も漸く欠乏するに至りたれば甚だしきはアモ（即ち蕨根より澱粉を去りたる糟を更らに細末にしたるものにして試に之を食ひたるに朽木を嚙むか如く如何にしても嚙下する能はざりき）稗糟のみ食して十数日を凌ぎ其の惨状見るに忍びざるものありし矢先き幸ひ外国人の救助ありて之れ等の窮民は些かに愁眉を開らくを得たる次第なるがこの地方の窮民等には外人の救助は實に非常の幸福たりしなり而して今回の外人の義捐金は此の地方各村の窮民には一人一日二合五勺の割にて二か月間を救済し得べく大抵去月二十日乃至は二十三日より分與し初めたりと云へは去る五月の二十日頃迄は救助を保ち得べし予は猿邊村にては成る丈け範圍廣く實境を視察したるに窮民は何れも少量の救助米に多量の菜葉大根等を刻みたるものを混じ之を粥に煮て更らに多量の稗粉（稗粉とは単に稗糟と云ふものと異り稗の外皮丈け去りて別に之を搗き上げず玄質のもの其の儘を粉にしたる者也）之を混じて恰かも蕎麦練りを拵へるが如くして之を食し居れり試みに之を嗅げば其のほひ異様にして殆んど形容に辞なく胃腑弱くして神系の常ならざるもの之を嗅ぐ時恐らくは吐瀉を催すことあるべし去れど窮民は之を喰ひて厭色なく（無論厭はるべき筈なけれど）寧ろ中に含む粒々の

米飯に無量の満足を現はし居れり其の惨状實に慄むべきものあり而も之れ雑穀を以て平常の重要食料とする此の地方の細農にしあれば目下食ふ所のもの平年に於ける彼らの常食と大同小異の間に在りとすれば此の地方の細民には根本に於て已に慄むべきものあるなり然して窮民の住む粗末なる家屋と着る衣服の襤褸襤褸しきとは之を伝へんとすれば彼等の平常を伝ふるに過ぎざるなり即ち衣服調度の如きは凶作等の緩慢に来る被害後一歳を出でざるに目立つ様な差異を現はすものに非らざるは云ふ迄もなきことなり去れど眞の同情心より之を観察する時はある者の凶荒に遇ひて零落の状にある者は却つて慄むべきものたるを忘るへからず

◎要するに 猿邊村の窮民は上郷、田子両村の窮民階段あるに反して一様なる窮境に在り今後如何許の窮状を重ぬべきかは豫じめ判ずべからざるも想ふに救助続かず補助食（蕨根、クゾ根、大根、菜葉、トコロ、稗糟等）又た絶いる時はソコに悲惨の終りを現はすなるべし左れど同胞は之を救ふに躊躇せざるべく窮民其の者も又得る所のものゝ労力に伴はざるを厭はず如何なる仕事にもあれ怠りなく十字して自ら立つの覚悟なかるべからず且つ村当局に於ても部内の窮民を救済するの目的を以て植林事業を行ふの議を起し已に其の事に決定したるやにも聞けり元來此の村には大字蛇沼に百七十四町余反及同貝守に四百九十八町余反の大字持ちの山野あり曩きには県当局にても五町歩乃至二十町歩の山野には成るべく植林をなすべしとの訓達をなせるあり旁々村債を起しても大字持ち山野の全部に植林を営み一には窮民をして植林仕事の賃金を得せしめ一には将来に向つて村の財源を造ることとすべしとの事なれば此の村の窮民は其の施行宜しきを得る暁には大ひに苦痛を減することとならん尚ほ養蚕時期には少なからざる山桑を三戸地方に売出し牛馬の如きも産地として数へられ居ることなれば追々之れ等に依りて尠ならず生活の急を凌ぎ得るようにもなるべし只本村は前にも述べし如く山又た山の間には部落をなし居るものから交通の不便甚だしく恐らくは三戸郡中其の最なる場所ならん従つて人民の氣風も幼稚に凶歉に対する驚慌の状も又た實に甚だしきものあり此の点に至つては慥かに田子、上郷二村の窮民よりも世人の同情を價すべく野澤、戸來、倉石地方の窮民と雖も又た其の慄むべき点に至つては猿邊村窮民の右に出つべしとも思はれざらなり何となれば野澤、戸來、倉石の如きは互ひに三戸、五戸の両市街に通する便は遙かに猿邊村の右にあればなり⁶⁾

⑦雑報 凶作地實況（第7報） 特派員 藤 澤

野澤村の凶作實況（上） 此の村も猿邊村と境して巒峯起伏の間に在り幅又た稍々廣き一條の溪谷に沿ひ西は大山脈の麓より東は陸羽街道に出づる迄で延長し其の間四里に亘りて点々として数部落をなせり西越、手倉橋二大字より成り全戸数三百二十六戸中昨年凶作の結果大字西越に三十六戸同手倉橋に十八戸の窮民を出せるが之等は即ち現に外人の義捐になりし米穀物品の分與を受け居れるものにして尚ほ之れに次ぐべき窮民は西越部内に二十六戸手倉橋部内に十七戸ありと云ふ之等を通計すれば實に三百二十六戸の全戸数中窮民と稱すべきもの九十一戸の多数にのぼれり想ふに不釣合に窮民の多き丈が少数を除くの外は其惨状の極めて甚しからざる所以なるべし

◎被害の程度 を見るに米作に於て村内水田の總反別一四五四反歩に対する昨年の米収高は八十石之を平年作に比すれば約千二百石の減収なりと云ふ然し一吏員の調査に依れば本村に於ける米収高は平年に於てさい人口一人に就き一斗に当らざる状況なりと云へどコハ事實に非らざることは疑を要せざる所な

り何となればたとへ米以外の雑穀を以て主要食料とする地方なりとは云へ一人の生命は些か一斗の米にて一ヶ年を過ごさるべきものに非らざるべければなり而も其のうち一ヶ年の諸費用を仰ぐ為めに大豆に次ぎて米を売り出すが此の村の慣ひなりと云ふものあるをや尚ほ収穫を調べ出したる数字上に於て已に平年の米収穫は一人一斗に当るに過ぎずとは事實に非らざるを証せり即ち前記の調べに依れば一四五四反歩の田にて平年約千二百八十石の収穫を示し居れり之を三百二十六戸に平均すれば一戸約三石六斗餘に当る此の場合一ヶ年一人一斗の収穫割合を成すとすれば本村は各戸平均三十六人の家内を有して一村の總人口一万一千七百十六人ならざるべからず之れ殆んどあり得べからざる現象なりとす何れ穀物の収穫高の調査の如きは誤りなきを保すべからざるが如く昨年に於ける本村の米収穫高の如きも一部落の如き皆無作の箇所ありしは地形上より之を見て事實たるには相違なきも全体に於ては尚ほ多少の石高を示し得べきが如し去れどヨシ収穫の高を増加して百三十石ありしとするも中農以上の者若しくは地主にあってこそ其の襟を寛ふするに足るべけれ多数の細農中然も分作をなし糊口を保ち居る者にありては依然凶作より来たりし窮乏に於て些か変る所なき食ふに物なきの嘆聲は到底免がるからざるは当然の事に属す次に畑作に於ては

	反別	収穫高	減収高
麦	530反	132	405
大豆	1200	480	571
小豆	140	6	647
粟	2000	784	600
稗	800	112	644
蕎麦	2000	264	616

前掲の主要雑穀に就き總体を合算すれば収穫に於て千七百七十八石減収高に於て三千四百八十三石にして本村に於ける畑作も又た上郷、猿邊に比し案外の減収なりしか如し想うに高山の麓に接し北に進むに随ひ不作の度を増加したるの現象あり

◎被害より来たりし影響 本村に於ける被害の影響は猿邊に比して尚ほ甚だしきものあり即ち村治の困難を云へは窮民の納税を渋滞すると夥しく村税の滞納額目下殆んど千餘圓にのぼれり然して之れか当然の結果として教員村吏員等の俸給は今尚ほ未払に属するもの三ヶ月に及び地稅の如きも延納出願者百九十餘戸にのぼれり次に本村は有名なる産牛馬地にして五戸産馬組合は殆んど本村の産馬を以て成立し居る程なるが斯業の有名なる丈けありて本村にては如何なる細民と雖も二頭以上の牛馬を飼養せざるはなく中には一戸にして十頭内外を飼養し田嶋某氏の如き二百餘頭の牛馬を有して之を細民等に預け産馬する時は其の子馬の売価を馬主と飼養者と半折して収むるの制を採れり斯の如く本村の農民は多数の牛馬を飼育し居る為め春期より植付頃迄は總て之を原野に放牧するの例ひなるが恰かも目下は其の期に際したるより昨年の大被害ありしが上に今年の秋期に於て収むべき畑作物を放牧牛馬の為に荒さるゝ時は非常の惨害となるべきを憂ひ一村協議して今年の放牧牛馬には各戸必ず其の看守人を付すべしとの事に決せる為め目下の處小学校生徒は大抵其の看守の為に山野に出て続々学校を欠席するものあるの氣勢

なるがコハ本村に於ける凶作影響の尤も甚だしきものなるか如し其の他被害の影響として特に注意すべきものは此の地方一般に昨年の不作の爲め牛馬の価格殆んど半減したること之れなり例年には牛馬を売りにて一年の納税其他の諸費用を得べきものが此の点に於て予想外の影響を被りたるものゝ如く山林の如きも本村には尠なからず之を有し居りしが昨年以來盛んに濫伐して鉄道の枕木其の他の材木を出したる爲め今や眼界指顧の間山には一木を止めざる底の有様にて之か結果としては今や農家の薪材を得る迄も容易ならざるが如き影響を及ぼせり之等の影響は今後数月間を経ては蓋し本村に於ける非常の苦痛となるべし其地本村主要の売出し産物たる大豆に於て五割強の減収なりし爲め之れより一年の食料とすべき煮味噌用の大豆を除けば殆んど売出しすべきものを餘さざる有様にて此の影響は中農以下のものに最も大なる苦痛を感じしめたるが如し野澤村全体より見たる被害の状況とそがえいきよとは大略斯の如し然らば之に依りて現はれし窮民の惨情は如何あるべき⁷⁾

⑧雑報 凶作地實況（第8報） 特派員 藤 澤

野澤村の窮民實況（下）

◎目下の惨状 之を猿邊村に比するに全体の上に於ては其惨状稍軽かるべきも支村に入るに従ひ被害の程度も強く従つて惨状も又甚だしきを致せるか如し而して本村に於ける惨状の最も甚だしきは大字西越部内の字細野、中鶴間及同手倉橋の一部にして石ヶ森辻の如きは三戸町に接近し居るより被害の程度は兎も角農民は案外に凶作の苦痛を免れ居るの情況何れ本村に於ける窮民と称すべきものは全戸数三百二十六戸に対する五十二戸にして中に就き其の三分の一は家内の大勢なるもの又は病人あるもの乃至は村のうちにて最ももつとも邊陲の地にある支村の住民等にして之等窮民のうちにて最も尤も窮乏を感じ居る者なるべく大字西越の西越（三十余戸）の如き案外に其の民情も進歩し且つ此の地には当地方の富豪としてよばるゝ田嶋勘次郎氏等ありて平生共よく部民を馴致し牛馬を飼養せしめ村中の掃除等も割合に行きとどき參觀僻取の地にある一小部落としては遺憾なき進歩を現はし居れり而して之れが爲め生活的頭脳も多少進歩しあるものと見え目下の處にては二三の貧民を除くの外他は大抵ドウなりコウなり支え居れる有様なり然し此の部落と雖も来る植付け頃には昨年の收穫物悉く盡きて食ふに物なく何れ多量の補助食と或る程度の救済続かざれば一家を保ち難きもの十数戸に及ぶべしと云ふ或は然らん之れに反して点々たる子村部落に入りて其の惨況を觀る時は恰かも猿邊村の窮民と互ひに輪籌する所なく曩きに外国人の救済に係はりし救助米に日々平均其の二倍位の補助食料を加へ□々焉として憐むべき生活をなし居れり曩きに本村民等は收穫の不成績を見るや生活の困難を思ひて一同申合せたる上老若男女の區別なく苟しく手足の働きをなし得べきものは隊を組みて山野に入り蕨根、藤蔦根、トコロ等を採掘して家に運び之を徑一間深き一間半位の土窟に貯へて冬期間の飢餓に備へたるが窮民等は昨收穫の田畑物に採掘せし蕨ね其の他のものを混和して糊口し来りしが本年一月末頃に至るや当時収めたる田畑作も全く盡るの窮境に陥りたる爲め止むなく蕨根藤蔦根等のアモ（即ち澱粉を去りたる残物）に其の粉を混じて料を増やし或は菜葉、大根等を細末にして之れを煮上げ塩を入れたる後くずを掛け廻し馬を屠殺して其の肉を煮込み味を付して食し来りしが漸く春期に進むに随ひ老廢馬の数を減じたる爲め價も高値となりし爲め屠殺馬を得るのみちも絶え殆んど食ふに堪えざる粗食をなし居りし矢先き幸ひ外国人の救済米あるに遇い細民は漸く愁眉を開くを得目下の處にては昨秋より此の二月頃迄食ひたるものより却つて良食をな

し居れり思ふに斯の如き状況なる故外人の救済米盡くるの時は更らに再び窮境に陥るもの村内二十戸の餘に及ぶべきは免かれざる事なるべし只本村に於ける多数の窮民は昔時と異なり有難き今の世には死の憂いなしと心得て殆んど依頼心一方に流れたるの傾向あり為め一物の食ふべきなき程凌ぎ易しなどつまらぬ考へを起こいし居るもあるは歎ずべき事にして村理事者たるもの又は各部落に於ける重立ちたるものは充分此の邊に留意する所ありて部民を督励し外人其他の救助ありて多少の餘力を存する場合に於て今秋穫期迄に至る生活上の助けになる如き仕事をなさしめ幾分にては自力を盡して世の慈善の徳に答ふべき様にせられたきものなり要するに本村の窮民も其の數に於てハタ其の情況に於て猿邊村と大同にして少差あるのみ只猿邊は部内に餘力あるもの少なくして窮民は親類縁者の頼むべきなき為め慘状も従つて強く本村は餘力あるもの割合ひに多き為め窮民は親類縁者の頼むべきものあり多少窮乏の苦痛を減じ居れるものゝ如し斯くて本村の

◎今後の慘状と救済の程度とは那邊に迄で進み那邊に迄で施こさざるべからざるかと云ふに予の見来れる四ヶ村（即ち上郷、田子、猿邊及本村）中蓋し本村は尤も之を豫測するに難しとなす田嶋氏の如きは此の際多少の一時借入金となすも牛馬の改良を行ふべしと説き居らるゝも元来牛馬の事たる其の改良の結果の利は多年の後に非らざれば之を見る事を得ざるものにして眼前の窮境を救済すべき所以に非らずと思はるゝなり県当局の訓示に係はる救済植林事業の如きも山地の有無より未だ村理事者間には一定の方針なく備荒貯蓄の如きも曩に千圓内外の額に進み居りしが先年個人へ貸し付けをなしたる為め此の際其の返却を得難く西越小学校の如きも多少の基本財産を有したりしがこれも備荒貯蓄と其の類を同じうし居りて村理事者も呆然たる有様なり次に村内には豫力ある者多き故私有山林は他村に比して多かりしも昨秋以外盛んに濫伐したる結果今や其の大半を伐り盡して少数窮民の如きは日常の薪材を得るに迄も苦しみつゝある現況なり之れに依りて見るに猿邊村の如きは平年とも窮民多く村内有力者も又甚だ多からざる割合ひに此の際村債を起して也と大字持ちの山野屋久五百餘町歩に大ひに植林を営みて目下の急を救ひ将来の財源を造り更らに世の慈善家の徳に答ふべしとて奮發しある際本村は平年に在りて猿邊に比し生活に易く村内有力者も多き割合ひに村理事者は茫々焉として一の劃策なきもの考ふに途なく従つて本村に於ける其慘状は何れの邊迄進み何の点迄で救済せざるべからざるかは之を豫測するに苦しまざるを得ざる次第なり村理事者たる者一番の奮發ありたきものなり因に県債土木救済工事はヨシ実施の曉に及ぶと雖も重なる凶荒地各村を通じて何の救済となる所なきと近年の方策続きに偶々昨収の不成蹟の而も普通田作に於て平均二分作畑作に於て四分乃至五分強の作柄を収めたるものあるに拘らず各村とも斯の如き慘況に陥りたるは大ひに之か原因をなせるものありしことに就ては大体凶作地状況を報道せる後凶作地区域全体に亘りて少しく之を識者に訴へたき考なり⁸⁾

⑨雑報 凶作地実況（第9報） 特派員 藤澤生

戸來村の窮民実況（上）

戸來村は昨年の凶荒に遇ひて尤も早く窮民の聲を挙げたる村なり東京の新聞社より派出せられたる多数の視察員に依りて青森県下に於ける凶作被害の激甚地として報道せられ従つて最も廣く慈善家の情同を惹きしもまた本村なりき仍つて余は本村に対しては充分注意を深くして其の觀察を遂けたるつもりなりサレバ余の視たる戸來村に就き其の被害の程度其の影響を報じ更らに其の窮民の慘状等が何れの点

に迄で進みつゝあるか之れが窮民の救済としては又那邊に迄手を盡さるべからざるかを考察せんと欲す本村も猿邊、野澤の両村と同じく陸奥山脈の麓にありて全村を通じて戸來村と稱し別に大字を以て分かつた多数の部落は幅稍廣き二條の澤目に点在して全戸数四百一戸を有せり此のうち外国人の寄贈に係る救助米を分與せられ居る現在の窮民は九十一戸二百二十六人にして之を猿邊野澤の両村に比するに村の戸数に於て些かに多数なるも救助人員に於ては殆んど二倍の多数に在り然して本村の大部分は猿邊野澤の両村に比し一般に進歩せりと云ふよりは寧ろ今時の開けて居ると云ふ方に近し

◎被害の程度 米に在りては昨年作付總反別百六十七町に対する収穫は即ち皆無にして更らに主要なる畑作に在りては

	反別	収穫高	減収高
麦	611 反	8479 石	89 石
大豆	1000	175	764
小豆	35	3	869
粟	1024	191	793
稗	350	130	793
蕎麦	439	165	666

今之を總括し其の石高を算するときには既往五ヶ年を平均して毎年五千七十七石づつ収め居たりしものか昨年に於て三千九百三十四石の減収を示し些かに千百四十三石を収穫したるに過ぎざるなり米に於て已に皆無作の不幸に加ふるに畑作に於て又非常の減収を見るに至れる本村の如きは蓋し被害の甚だしきものと云ふを得べし無論田作に於ける皆無作とは事實に非らざるは云ふ迄もなきことにして兎に角予の視たる所に依れば尠なくとも全村を通じて四五十石の収穫はありたるものゝ

如く現に二三農家に就き稻穂より手撰にして得たりと云ふ粒を見るも又た之を証し得べく次に畑作の如きも粟の百九十石及蕎麦の百十三石等は尚ほ多少増石して之を報じ得べきか如しサレド米収の四五十石位は無論収穫を以て称すき格に非らざるべく粟蕎麦等の實際収穫の如きも米作よりは多少の國多可を示せるに止まりて農民の食料には依然として欠乏を告げ居れることに慥かなる事實なり斯くて本村に於ける

◎被害の影響 の如きも又猿邊、野澤の両村と甲乙する處なく或る点に於ては猿邊、野澤の両村に比し被害の程度甚しきものあるにも不拘ソガ影響は却つて緩慢なる現象もあるなり之れ村民が猿邊、野澤等に比し多少開け居るが為めにも依るべけれど一には交通の彼れに比して便利の地にあるが為めなるべし然し諸種の方面に亘りて凶作の影響を蒙り中にも村税不納額の如き目下二千圓に達せんとするの傾あり旁々小学校教員や村吏員俸給の如き其の支払に就て多大の苦痛を感じ居れるものゝ如し学校は二校未だ生徒の欠席するものを見るに至らず又本村教育基本財産としては學田もあり積立金等もありしか此の金額は先年個人に貸付けをなしたることとて目下は早速其の返済を受くと能はざる有様なるが此の点に於て畧ぼ野澤村と同一の運命を持てるものと云ふべし又本村農民が種々の生活費や納税費を得るには大抵大豆、牛、馬等売り出すが一般の習ひなるが大豆は約一分作牛馬は平年の半値段と迄に下落した

る場合豫想外窮迫を感じ居れるが如き影響の大なるものなり其他小学校生徒が中飯の携帯の困難や新学期に際したるも窮民は其子弟に教科書を購ひ與ふる餘裕なきものもあるなど猿邊、野澤等と異なるなく窮民の意気衰へて事のなすべきなきに苦しみ居るか如き又影響の最なるもの也されど本村には経木の工場もあり婦女子の如きも多少に不拘賃金を得るの便もあり且つ小坂、不老食両鉱山へも本村よりは約百餘名の壮丁出稼し居ることなれば影響も之等の原因に依りて多少減殺せられたるものならんか斯くて田作物の甚だしく不成績なりし割合にその影響の甚だしからざる本村の窮民か如何なる情況にありやと云ふに先づ

◎目下の惨状 としては少数の一部を除くの外は猿邊よりも甚だしからざる程度にあるものゝ如し然し村民の言ふ所に依れば目下の惨況は彼の外国人の救助ありてより大ひに其の度を減じたる有様にして今の處にては当時多少穀物を有せる為め救助に與かるを得ざりし細民の方却つて悲惨の狀態にありと云ふ一理あることと云ふべし部内に於て惨状の尤も甚だしかりしは上椽棚及び川代等も尤も甚だしきを極め部内六十戸の農民の大半は食物の心労に殆んど顔を損ひおるの實況なり只本村に在りて尤も不幸なつことは補助食としては尤も必要となる蕨根の甚だ多からざることなり之なきが為に一層粗食の止むべからざるに至り目下は澱粉食料としては藤蕨根よりドウなりコウなり澱粉をとりてアモ、菜葉、大根等にくづ廻しをなし居るに過ぎざる有様なるが藤蕨根の如きは之を採掘するには非常の困難なるのみならず或場所に依りては同一の藤蕨にてありなから些の澱粉を含まざるものありて猿邊、野澤方面の蕨根其他補助食の充分なるに比較して窮民は餘程窮乏の苦痛を高め居るの状あり然して村内の中農と称せらるゝ者は平年に在りては米、粟の兩種を五分五分位ひにして常食となし居る慣ひなるが之等も目下の處にては粟乃至は稗を七分に米三分の割合にて食し居り下りては粟、稗五分米二分に大根の刻みたるもの菜葉のきざみたるもの等三分許り混じて糊口し居る中農側のものもあるに至れり（此頃未完）⁹⁾

⑩雑報 凶作地実況（第10報） 特派員 藤澤生

戸來村の窮民実況（下）

◎目下の惨状（続き） 本村に於ける中農以上の生活は略ぼ前回到に報じたるが如し然ば其窮民と称せらるゝ九十二戸二百二十六人の生活状態は如何と云ふに恰かも予は第二、三報に記報せる田子村の窮民状態と趣きを同じうせりと云附のふさわしきを思ふなり即ち本村の窮民九十二戸二百二十六人に就ては劃然たる二種の階級を設け得べしと思ふなり曰はく普通の窮民と窮民中の窮民と之れなり然し普通の窮民に属する者も窮民中の窮民を以て称すべき者も目下の食物に於ては別段異なる所なく分與を受けし外国人の救助米に多量の大根、菜葉乃至はトコロ芋等の細沫物や又は稗の玄質の物を混じて粥に煮込み之を常食となし居るは一般の状況なり又只今の處にては見るを得ざれど昨年の秋冬間には老廢馬を屠殺して其の肉を刻み右の粥に入れて味ひを付して食したるも事實なり中に又窮民中窮民を称すべき者に在りては之等の補助食料にも事を欠きて単に救助米のみを食し居る者あり一通りの觀察にては之等は却て良食をなし居るが如く見ゆるも其の實救助米一日二合五勺は多食の慣習ある農民等にありては到底食欲の半をだに満たす能はず何かの補助食を加へて飢を凌がんとするも大根、菜葉の貯へもなければ稗粟の如きは勿論あるべき筈なく去りとて之等のものは多くは老人病者の如きものなるが故に壯健者と伍して山に入りてトコロ芋、藤蕨根等の採掘もかなはず仕様ことなしの良食をなし居る譯にて其の心中の苦痛は却つ

て愍然とすべきものなり斯くて之等の窮民は些かに與へられしものを食ひて哀々として其の日を過ごし只皆救助の永續せんことを神仏に祈り居る有様なり愍むべきなり想はに之等の者は何れ救助一方に依らしむるより致方なかるべく救助を欠く時は即ち生命に関するか如き悲境に陥へるべきときならんサレドそは極めて少数に過ぎされば当局者に於ても之等の者へば夫々の手續を盡して救済ありたきものなり次に此の地方細民の居住の有様の如きは特に昨年の凶作より来りし惨況の一としては称すべからざるも周囲の不潔と衣服の見苦しきとは又格別の者にて古藁を広げて之れに切れ藁を敷きたる寢室の如き殆んど塵芥のうちに臥すると見て可なり斯の如き状況なる故曩に外人の寄贈になりし大模様付きの毛布一枚は窮民各自の寢室にありて殆んど辻褁の合はぬ迄に異彩を放ち居れるかの觀ありつまり粗衣粗食はこの地方村落の平常なれど只昨年の凶作に依りて常なからの粗食さい不十分になれる丈は即ち世の同情家の憐みを買ふべき所以なりとす

◎要するに本村の窮民には前にも述べたるか如く二種の階級ありて窮民中の窮民とも云ふべき一部のものに在りては何れにしても救助一方に依られは生命を保ち能はさるべく彼等の今後の惨状も又従つて何れの邊まで進むべきかを云ふの必要なるべし次に普通の窮民に属するものは今年の収穫期迄は目下の窮乏よりも甚だしきを見るに至らざるべく此の際村理事者の施設督励に於て謬所なくんば却つて生活し易き現象を見るに至るやもはかられず且つ此の地方の習慣としては平年共よく飲みよく費やすと云ふが欠点なるが如し就ては此際無智の窮民をして貯蓄の必要なるを自覚せしむる好機会と云ふべし

◎今後の救済 惨情を以て称すべき窮民は一部分に過ぎずして他の大部分に在りては名称丈けが窮民を以て称すべきも其の實は各村を通じて現はれたる窮況と異なる所なく寧ろ猿邊村の一般甲乙なく困窮し居れるに比して戸來村民たる者自ら励む所ありて可ならんなり勿論此の村は田作に於て皆無作の不幸に遇ひ畑作に於ても又他村に比し一層甚だしき被害を蒙りたるは事實なれば表面に於ては其の惨情は猿邊野澤の以上に在りと言ひ得べきか如きも其は然らず元來此の村は平年とも有数の劣作地なるものから人民は多く田羽田作以外に労役に依りて生活費の大半を収め居れるなり即ち有名なる戸來官林は此の村を囲みて繁茂し居り且つ其間私有山林も又尠なからざることなれば年々多額の木材を産し現に昨秋より今春にかけて算出したる鐵道枕木の如き数千圓の多額にのぼり牛馬の産出の如きは年々万を以て数ふべき状況にあるなり以て是等の業務は如何に本村民の生活に重要なるかを知るべく現に昨年の凶作後も之等の業務あるが為めに本村の窮民が他村に比して大ひに苦痛を減じ居れることも又知るべきなり其の他本村には稍大仕掛けなる経木の工場有りて日々四五十人の人夫（男女に限らず十五六才以上の者は）多少に拘はず賃金を枝らるゝ仕事なり）を使用し居れば之れによりても多少の助けを得らるべく小坂、不老倉及十和田の三鉦山へ本村よりは年々約百六七十名の壮丁出稼ぎ居れりと云へば是れ等の壮丁か出稼先きに於て浪費を慎む以上は相応の金額を父兄に送り得べく現に心掛けよきものは毎月相応の金を送りて父兄を助け居るもありと云へば出稼先きに於ける取締に注意する時は是等の壮丁は一様に労金を送り越す様になるべし故に是等の諸業務に加ふるに救済土木工事及植林事業等よりよく救済の目的を得せしむれば本村の窮民には一部の者を除くの外は自ら勞して食等はしむることを得べく曩きに本村の惨状は県下の凶作地を通じて尤も甚だしと呼ばれたるもの予の見たる所にして大なる誤りなき限りは多少意外として可なるが如く猿邊村の惨況は寧ろ本村に比して尚一步を進め居れるの有様なり次に本村に次きて惨情の聲を高めたる倉石村の窮民實況を報すべし¹⁰⁾

⑪雑報 凶作地実況（第11報） 特派員 藤澤生

倉石村の窮民実況（上）

倉石村も戸來村と共に凶作に就ては尤も早く窮民の聲を揚げたる村なり此の村は猿邊、野澤、戸來の諸村と異りて山嶽と稍々遠かり且つ全体に於て地形高燥なる南部地方に在ては割合ひに幅廣き澤目（五戸川目と云ふ）に添ひて数部落をなし村は中市、又重、石澤の三大字に區劃せられて五百十三戸の戸数を包含せり然して本村に於て窮民と稱し居るものは全戸数五百十三戸に対して六十四戸百五十八人あり即ち現に外国人の寄贈に係る米穀を分與せられ居る者也のなり

◎被害の程度 本村の昨年来収高は水田總反別三百四十八町に対し些かに五十一石と云ふ調べなれともコハ唐突の間に調査したるもの故誤りを生じたるものにして実際の收穫高は百三十餘石なりと云ふ之は真面目なる同村役場員某氏の調査したるものにして疑ひなき事實なるが如し然して畑作主要雜穀の昨年来收穫高を挙げれば

	植付反別	收穫高	平年に比し減収高
麦	690反	690石	208石
大豆	2500	1770	558
小豆	653	10	800
粟	2000	1530	950
稗	500	100	929
蕎麦	2200	1200	900

にして之を總括して全体の収、減を見る時は五千三百石の收穫に対する減収高は四千二百四十石なり即ち本村に於ける畑作は實に五分五厘強の收穫にして之を他の凶作村落に比しては好成績を現はしたるものと云ふべく被害の程度より云ふ時は頃日来報じ來れる田子、上郷、猿邊、野澤、戸來に比して遙かに軽るかりしなり斯くても本村に於ける

◎被害の影響 田畑作の他村落に比して良好なりしにも似ず其影響は戸來野澤地方と何の異なる所なく村治の困難は他村と等しく起り村税の滞納税は千六百圓の多額に登り役場には凶作に関する事務増大して為めに通常事務は渋滞し各大字に一校宛の三小学校生徒はやはり中飯の携提に困難する者多く教科書を購ひ得せしめざる父兄も猿邊戸來諸村と共に尠からず多し且つ村民は諸税金や生活上欠くべからざる諸費用の欠乏には意外に苦痛を減じ居るものゝ如く窮民目下食しおるものも非常に粗悪なるものにして之等は皆凶作の影響の結果に外ならず聞く處に依れば本村に於ける昨年の畑作は此の二三年に比しては遙かに好成績を現はしたるものにして去る三十三、四年の如きは大豆、粟の如き三分作を辛くして収めたる次第なるも別に農民は凶荒の聲を發するに至らざるもの畢竟するに米作に於て良成績を示し居れるか為めにして昨年は大豆、粟、蕎麦に於ては凶作としては稀に見る程の收穫ありしも米作に於て作不足なりし故かくは農民の嘆聲を發するに至れるなりと云ふ斯の如く本村にては麦、大豆、粟、蕎麦の主要なる田畑作物を通じて七分作強の好成績を得たること故半年の如く売出し主要穀物たる大豆粟等に加ふる

に此の地方の特産物たる牛馬を

以て可なり諸税其の他の生活費を得られるべきか如し而も事實は之と反して本村の蒙りたる被害の影響は依然戸來野澤諸村と異なる處なく多数の細民は一様に諸費の窮乏に苦しみつゝあるなり斯の如きは昨年の収穫高に比例して多少不合理の現象なる故其の由因を調べたる處即ち此の両三年來は畑物不作続きにて昨年夏の頃には皆々「今年の畑作も不成蹟に終る時は米はイクラよくとも持ち切れぬ」と話し居りし矢先き果然米作に於て大打撃を蒙りたる上畑作に於ても麦、大豆、粟、蕎麦の四種を除くの外は總て不結果に終りし故かくは窮乏の不幸を見るに至れる譯にしてつまり此の両三年大ひに疲弊し居れる處へ米作の大減収見たるが為めなりと云ふ然し本村に於ける昨年の畑作より見る時は他に何かの由因なき以上は凶作騒ぎを去れぬ程度に在りしなり然り疲弊の原因と云ふべきもの畜に両三年前より畑物の不作続きなりし為めのみならず此の地方村民の過半は自家用酒造ありし頃より飲酒に度なく至る處に開業されさる居酒屋には何時も酒を過こして臥轉ひ居るもの五六名を見さるはなく町歸へり際なども酒の為に路傍の靡路に倒れ居るもの点々として之ありしは怪しむに足らざる有様なりき其後幸ひに自家用酒造廃止となり更らに二三年前よりは畑作劣等なりし為め此の悪習も漸く減少したるも想ふに幾年の長き間酒食の為に裕餘を湯盡し居りしものから昨年の凶作か此村に在りては一増其の影響の度を高めたる譯ならん此の酒癖の事に至りては市街をなしたる箇所に近い郷の人程彌々甚だしく倉石村は恰かも五戸を相距る些かに一里に過ぎさる事故戸來猿邊地方に比しては飲酒の悪習も一層甚だしきものありしが如し現に此の村中の一部たる大字石澤の字横倉部民は昨年にて田畑共尤も劣作を見たるにも不拘平年共部民は擧つて酒を慎み勤儉を旨とし來りし事とて十二戸中十戸迄は裕福に暮らし居れるが如きを見ても酒癖の累をなすこと大なるを知るに足るべく本村か畑作の割合に良成蹟なりしに反して被害の影響甚だしかりしも之等の原因に依りて当然招けることと云ふべきなり¹¹⁾

⑫雑報 凶作地實況（第12報） 特派員 藤澤生

倉石村の窮民實況（下）

◎目下の慘状 本村の慘況としては大字中市の前新田同石澤の市ノ坪尤も甚だしく大字石澤の横倉十二戸は被害尤も甚だしかりしか平年共部民は勤儉なる為め裕福に暮らし居れり又役場所在地たる大字中市の中市三十戸も一般に窮迫者少なき状況なり然して大体の上より之を觀る時は本村も戸來村と趣を同じうせり即ち全戸数五百十三戸に対する窮民六十四戸百五十八人を以て稱するも眞に世の同情家に祈ふべきもの予の見所にては全村を通じて二十戸内外に過ぎさるべく之等の極窮者に在りては随分悲惨の生活をなし居れり然し其の他の窮民も居住の汚穢なると食料の粗悪なると極窮者とはサシタル懸隔あるにあらず先づ外人の救済になりし少量の分與米に戸來あたりと同じく大根、菜葉、トコロ芋等を細沫にして粥に煮込み更らに稗糠を加へて之を啜り居るが一般の状況にして多少に拘はらず粟を所持して之を加へ居る者は夫れ丈け大根、菜葉等の補助食料を少なく煮込み得べきを以て窮民中にありても体のよき方なり然して本村に於ては蕨根、藤蔦根に乏しきを以て補助食としては尤も有要なる澱粉を得るの叶はず為めに或る点に至りては猿邊、野澤、戸來の諸村より却つて苦痛を感じ居る窮民もあるなり即ち猿邊、野澤、戸來の諸村に在りては大根、菜葉の代りに或る程度迄は澱粉乃至はアモ（即ち蕨根の二番とり）を用い得べく大根、菜葉の貯蓄盡くるも之等のものに依りて凌ぎ得べしと雖も本村は凶凶に際しては有

要とする之等の補助食を欠くが為め益々粗食の止むなきに陥いるなり然して之等の理由に依り本村に入りて初めて松皮餅を食し居る現象を見たり即ち頃來報じ來れる田子より戸來迄其の間五ヶ村に於ては有益なる凶歳の補助食として蕨根、藤葛根の澱粉を用い居るが故に木の皮餅を食し居るもの皆無なりしが本村には之等有益の補助食料なき為め勢ひ松皮餅なども之を食はざるべからずなりたるものなるべし無論此の松皮餅は日々常食するものにはあらずして例へば粥を啜りて野山仕事に従事する時は短時間にして空腹を覚え思ふが儘に労働叶はざる故右の餅を携提し行き空腹を感じて之を食するものにしてホンノ腹フサキ位に止まれり試みに之を食ひたるに少しも松の臭ひなく多少酸味を帯びて口中に粘液起りサシテ食ひまじきものに非らず只口中に繊維を残すが此の食物の忌むべき点なりとす其の製法は松の外皮を去ればうちに白色の軟質物あり俗にアマ皮と称するものにして之を剥き取りて細刻し凡そ十五六時間位も煮たるのち臼にて搗き上げ適宜に米飯乃至稗、粟飯を加へて搗き混ぜて製する由にて其の手数さは蕨根より澱粉をとるに数倍すと云ふ次に本村の窮民中少しも稗粟をもたぬものは五戸の稗搗き水車場（此の水車場は五戸の二三有志の組合よりなるものにして賃搗等にて出づる稗糠澤山あり）に至りて稗糠一斗二銭位に買ひ來り補助食の大部分となし居るもあり

◎要するに 本村には一二餓死に類したるものありしが（田子より戸來に至る五ヶ村とも之れと同一の現象ありしは事実なり）幸ひ外国人の機敏なる救済ありし為め此の大惨事を見るに至らざりしものゝ如し（外国人の機敏なる救済如何許り窮民の感情を動かせしが然してその生み出したる我が県民、県当局者…日本国民の恥辱＝失態は如何許なるかは機会を見て世人に告ぐることもあるべし）然し斯の如き極貧者は尤も少数なるは云ふ迄もなきとなるがとかく救助意外に彼等の命を保たしむる能はざるものあるは事実なり其のほか大部分の窮民等は其の居住の汚穢（ヨシ平年とも然りとするも）なると食物の粗悪なるとは敢て極貧者と選ぶ所なきも之等の者は多くは稼くべき手足を持つが故に冬期間稼くべき仕事のなかり時には予想外の窮迫を感じたるべきも今や春暖の候漸く進みて草木新に生じ馬鈴薯麦の如き尤も早く熟するものあれば村、県当局者若くは有力家の激励順致の如何に依りては自ら勞して食はしむるを得べく極窮者たる一家には老、病、幼者等多数を抱えて而も稼き手としては若夫婦二人のみと云ふか如きものとは全然趣を異にしたるものと云ふべし即ち本村窮民の大部分には宜しく何かの仕事を以て救済すると同時に精神的にも救済を施すべく少部分の極窮者には外人の救助米（五月十日頃迄続く）盡くると同時に遅緩なく夫々の救助を施すか至当なるが如し

◎今後の救済 右の如き現況なるが故本村に於ける今後の救済としては村の所在地が市街地の五戸町に接近し居る丈け且つ全体の地形が猿邊、戸來の諸村に比して良好なる丈け容易なるものあるべし即ち日傭仕事の如き有力家の力に依りて彼等に授け得べく此の村よりは十年以前は盛に藁細工物を売り出されたる由にして現に至る處の家々には自分用の草履草鞋なりとてゾングリ梁に吊し居るを見ても奨励如何に依りては生活費のタシキを得せしめ得べし其の他植林事業の如きも県訓示に基きて行ふ筈なれば多少救済の實を揚げ得べく只土木工事よりの救済は或は本村民も猿邊、野澤、戸來の三村と同く與り能はざるの状況なるは遺憾とすべし其の他本村にては昨年より組合畑地の開墾に従事中なる由にて十戸十五戸乃至は二十戸位組合して二三町歩より十餘町歩畑開墾をなし居るもの十数组ありと云へばれ等にも資本を投ずるものあらは非常の良成績を見るを得べきなり只夫れ本村の一老に聞くに本村は一般に酒癖の悪風ありと云へは部落に於て尊長を以て呼ばるゝのは此の機を以て大ひに部民を戒飭し此の悪習を除去す

るに勉べきなり¹²⁾

(注)

- 1) 特派員 藤澤生 「凶作地實況 (一)」『東奥日報』明治36年3月31日
- 2) 特派員 藤澤生 「凶作地實況 (二) - 田子村の窮民實況 -」『東奥日報』明治36年4月1日
- 3) 特派員 藤澤生 「凶作地實況 (第三報 - 田子村の窮民實況 (下) -)」『東奥日報』明治36年4月2日
- 4) 特派員 藤澤生 「凶作地實況 (第四報) - 上郷村の凶作實況 -」『東奥日報』明治36年4月3日
- 5) 特派員 藤澤生 「凶作地實況 (第五報) - 猿邊村の凶荒實況 (上) -」『東奥日報』明治36年4月5日
- 6) 特派員 藤澤生 「凶作地實況 (第六報) - 猿邊村の凶荒實況 (下) -」『東奥日報』明治36年4月7日
- 7) 特派員 藤澤生 「凶作地實況 (第七報) - 野澤村の凶作實況 (上) -」『東奥日報』明治36年4月8日
- 8) 特派員 藤澤生 「凶作地實況 (第八報) - 野澤村の凶作實況 (下) -」『東奥日報』明治36年4月9日
- 9) 特派員 藤澤生 「凶作地實況 (第九報) - 戸來村の窮民實況 (上) -」『東奥日報』明治36年4月10日
- 10) 特派員 藤澤生 「凶作地實況 (第十報) - 戸來村の窮民實況 (下) -」『東奥日報』明治36年4月11日
- 11) 特派員 藤澤生 「凶作地實況 (第十一報) - 倉石村の窮民實況 (上) -」『東奥日報』明治36年4月12日
- 12) 特派員 藤澤生 「凶作地實況 (第十二報) - 倉石村の窮民實況 (下) -」『東奥日報』明治36年4月14日